(様式第 10)

島大医総第３１０－１号
平成２９年１０月　５日

厚生労働大臣　　殿

開設者名　国立大学法人島根大学
学長　服　部　泰　[redacted]

島根大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒690-8504　島根県松江市西川津町1060
氏　　名	国立大学法人島根大学

(注)　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

島根大学医学部附属病院

3　所在の場所

〒693-8501
電話 (0853) 23－2111
島根県出雲市塩冶町89-1

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

(1)医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注)　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有)・無
内科と組み合わせた診療科名等 1内分泌代謝内科　2腫瘍・血液内科　3消化器内科　4肝臓内科　5神経内科 6膠原病内科　7呼吸器・化学療法内科　8腎臓内科　9循環器内科	
診療実績	

(注) 1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1消化器外科　2肝・胆・膵外科　3小児外科　4乳腺・内分泌外科　5心臓血管外科 6呼吸器外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科　(2)小児科　(3)整形外科　(4)脳神経外科　(5)皮膚科　(6)泌尿器科　(7)産婦人科 (8)産科　(9)婦人科　(10)眼科　(11)耳鼻咽喉科　(12)放射線科　13放射線診断科 (14)放射線治療科　(15)麻酔科　(16)救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ (無)
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科　2矯正歯科　(3)歯科口腔外科	
歯科の診療体制 歯科医師を常時配置している。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科　2臨床検査科　3病理診断科　4リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
30床	床	床	床	570床	600床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　種	常　勤	非常勤	合　計	職　種	員　数	職　種		員　数
医　師	357人	5人	358.6人	看護補助者	42人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	13人	0人	13人	理学療法士	18人	臨床検査	臨床検査技師	36人
薬剤師	37人	0人	37人	作業療法士	9人		衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人		その他	0人
助産師	27人	3人	29.1人	義肢装具士	17人	あん摩マッサージ指圧師		0人
看護師	665人	23人	681人	臨床工学士	17人	医療社会事業従事者		8人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	1人	その他の技術員		44人
歯科衛生士	1人	3人	3.3人	歯科技工士	0人	事務職員		211人
管理栄養士	6人	1人	6.7人	診療放射線技師	38人	その他の職員		25人

(注) 1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	41人	眼科専門医	9人
外科専門医	31人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	17人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	12人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	23人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	4人
		合　計	199人

(注) 1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　井川　幹夫　）　任命年月日　平成２４年４月１日

・医療問題専門部会部会長
・日々のインシデントレポート把握
・病院内での全死亡患者の把握
・合併症の把握

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	498.7人	11.4 人	510.1人
1日当たり平均外来患者数	1,050.7人	39.71人	1,090.4人
1日当たり平均調剤数	1,066.7		剤
必要医師数	115		人
必要歯科医師数	2		人
必要薬剤師数	18		人
必要（准）看護師数	293		人

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	577.71m²	鉄筋コンクリート	病床数	14床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	［固定式の場合］ 床面積 222.55m²　病床数 20床 ［移動式の場合］ 台数 0台					
医薬品情報管理室	［専用室の場合］ 床積 52m2 ［共用室の場合］ 共用する室名					
化学検査室	523m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）生化学検査装置、免疫分析装置			
細菌検査室	100m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）血液培養装置、質量分析装置			
病理検査室	239m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）自動包埋装置、自動染色装置			
病理解剖室	57m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）感染対策用解剖台、臓器撮影装置			
研究室	14,142m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）透過電子顕微鏡、質量分析装置			
講義室	1,858m²	鉄筋コンクリート	室数	10室	収容定員	1,446人
図書室	1,819m²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	132,000冊程度

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		88.0%	逆紹介率	53.2%
算出根拠	A：紹介患者の数			9,558人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			6,859人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			1,479人
	D：初診の患者の数			12,901人

(注) 1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
中山　健吾	島根県病院局	○	医療安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
中島　健二	独立行政法人国立病院機構松江医療センター		〃	有・(無)	1
二國　則昭	弁護士法人広島みらい法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
坂本　達夫	塩冶コミュニティセンター		医療を受ける者	有・(無)	2
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 島根大学医学部附属病院のホームページにて公表	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	0人
EBウイルス感染症迅速診断（リアルタイムPCR法）	16人
難治性高コレステロール血症に随伴して重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	0人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	6人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）	15人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法）	9人
多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法	1人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 末梢血自家造血幹細胞移植術　4人、血縁者間末梢血造血幹細胞移植術　2人、非血縁者間骨髄移植術　1人、臍帯血移植			

医療技術名	Sit food elimination diet for EGE	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 好酸球性胃腸炎患者の治療のために特殊な除去食を行い、治療に成功した。			

医療技術名	食道EMR後のステロイド充填法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 食道癌内視鏡治療後の狭窄を防ぐため、食道内へのステロイド充填を行い、狭窄の予防を行った。			

医療技術名	ヘルペスウイルス属の遺伝子診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 単純ヘルペス、帯状疱疹などの皮膚疾患で明らかな水疱形成がない場合に、生体標本からヘルペスウイルス属の特異的遺伝子を検出する方法			

医療技術名	食物アレルギーにおける末梢血好塩基球による食物抗原の同定	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 食物アレルギーを疑う患者の末梢血好塩基球を使用して食物抗原への感作を同定する方法			

医療技術名	関節鏡視下膝靱帯再建術	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要 関節鏡（内視鏡）を用いた最小侵襲手術かつ、無輸血手術、無駆血手術を行い、早期リハビリテーション、早期社会復帰を可能にしている。			

医療技術名	人工股関節全置換術	取扱患者数	61人
当該医療技術の概要 クリーンルームで超清潔下に人工股関節置換術を行っている。			

医療技術名	脊髄誘発電位測定	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要 手術中に脊髄誘発電位測定を行い、安全かつ有効な手術を可能にしている。			

医療技術名	顕微鏡視下手術	取扱患者数	66人
当該医療技術の概要 脊椎外科・手の外科や腫瘍再建外来において、顕微鏡を用いた神経の剥離、微小血管・神経の縫合や組織移植を可能にし			

医療技術名	培養軟骨移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			

医療技術名	バクロフェン髄注療法（intrathecal baclofen therapy: ITB）	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 脳や脊髄に障害を受けた患者さんでは、上位中枢から脊髄へのコントロールが失われ、手足が勝手につっぱるという痙縮を来す。痙縮は日常生活の障害を引き起こす。この痙縮をやわらげる薬であるバクロフェンを脊髄腔内に直接投与することで、薬物抵抗性の重度痙縮を緩和することでができる。			

医療技術名	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			

従来水晶体再建術時に挿入するレンズは単焦点レンズで1点にしか焦点が合わなかったが、多焦点眼内レンズを挿入すると遠近ともに焦点が合う。

（注）1　当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2　医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	39
2	筋萎縮性側索硬化症	12	57	特発性拡張型心筋症	25
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	3
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	8	60	再生不良性貧血	20
6	パーキンソン病	70	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	24
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	27	66	IgA 腎症	12
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	10
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	29	68	黄色靭帯骨化症	8
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	12	69	後縦靭帯骨化症	50
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	29
17	多系統萎縮症	11	72	下垂体性ADH分泌異常症	4
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	21	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	8
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	15	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	14
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	42
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	43
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	14
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	1
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5
34	神経線維腫症	4	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	10	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	8
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	
40	高安動脈炎	11	95	自己免疫性肝炎	1
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	76
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	109
43	顕微鏡的多発血管炎	25	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞僅少症	
47	バージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	96	104	コステロ症候群	1
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	41	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	49	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	23	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	9	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	2	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎		110	ブラウ症候群	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	13
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	6
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜症	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR－X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治類回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腱黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群	12	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎	4	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）		274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	
231	α1－アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	4	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膵炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	6
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース－1－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	16

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β―ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L―アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症		327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料3
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料2
・診療録管理体制加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・医師事務作業補助体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料1
・急性期看護補助体制加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算	・小児入院医療管理料2
・看護補助加算	・緩和ケア病棟入院料
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院支援加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・データ提出加算	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

No.1

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病合併症管理料	・神経学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料1	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料2	・コンタクトレンズ検査料1
・がん患者指導管理料3	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来緩和ケア管理料	・内服・点滴誘発試験
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・CT透視下気管支鏡検査加算
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・画像診断管理加算1
・糖尿病透析予防指導管理料	・画像診断管理加算2
・院内トリアージ実施料	・遠隔画像診断
・外来放射線照射診療料	・CT撮影及びMRI撮影
・ニコチン依存症管理料	・冠動脈CT撮影加算
・開放型病院共同指導料	・外傷全身CT加算
・がん治療連携計画策定料	・心臓MRI撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・薬剤管理指導料	・外来化学療法加算1
・医療機器安全管理料1	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料2	・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
・検体検査管理加算（Ⅳ）	・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・がん患者リハビリテーション料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・認知療法・認知行動療法1
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
・胎児心エコー法	・医療保護入院等診療料

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

No.2

施設基準の種類	施設基準の種類
・エタノールの局所注入（甲状腺）	・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
・エタノールの局所注入（副甲状腺）	・体外衝撃波胆石破砕術
・透析液水質確保加算1	・体外衝撃波膵石破砕術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下肝切除術
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る。）））	・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体腎移植術
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・膀胱水圧拡張術
・網膜再建術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）	・腹腔鏡下仙骨膣固定術
・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）	・胃ろう造設時嚥下機能評価加算
・同種死体腎移植術	・輸血管理料Ⅰ
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・麻酔管理料（Ⅰ）
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・麻酔管理料（Ⅱ）
・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	・放射線治療専任加算
・補助人工心臓	・外来放射線治療加算
・内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術	・高エネルギー放射線治療

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

No.3

施設基準の種類	施設基準の種類
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療（IMRT）	・
・定位放射線治療	・
・病理診断管理加算2	・
・歯科治療総合医療管理料（Ⅰ）	・
・歯科治療総合医療管理料（Ⅱ）	・
・歯科口腔リハビリテーション料2	・
・手術用顕微鏡加算	・
・歯根端切除手術の注3	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・CAD/CAM冠	・
・歯科矯正診断料	・
・口腔病理診断管理加算２	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	・
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	3～4回／月
剖検の状況	剖検症例数 31 例 ／ 剖検率 7.5 %

（注） 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨による筋組織制御機構の解明	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	2,210,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	320,000	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
カルシウム・リン・ビタミンD代謝異常症の検討	杉本 利嗣	内分泌代謝内科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
骨芽細胞特異的AMPK欠損マウスを用いたAMPKの骨形成における重要性の解明	金沢 一平	内分泌代謝内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規海綿骨構造指標と有限要素法を活用した2型糖尿病の構造的骨質低下機序の解明	清原 信昭	内分泌代謝内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
集約的オミックス解析による難病の原因究明と疾患別遺伝子診断ネットワークの構築	木下 芳一	消化器内科	2,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新生児期から高年期まで対応した、好酸球性消化管疾患および稀少消化管持続炎症症候群の診断治療指針、検査治療法開発に関する研究	木下 芳一	消化器内科	2,000,000	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
好酸球性消化管疾患の発症に及ぼす体内細菌叢の影響	木下 芳一	消化器内科	780,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Notchシグナル再活性化によるバレット食道の発癌・進展機序の解明	石村 典久	消化器内科	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
制御性B細胞の誘導・活性化機構の分子メカニズムの解明と腸管炎症制御への応用	石原 俊治	消化器内科	1,690,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
自然リンパ球を標的とした好酸球性食道炎の病態機序の解明	大嶋 直樹	消化器内科	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性ウイルス性肝炎の病態把握（重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測）のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	佐藤 秀一	肝臓内科	30,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	佐藤 秀一	肝臓内科	200,000	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
精神的価値が成長する感性イノベーション拠点	山口 修平	神経内科	3,900,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
脳ドッククラウド	山口 修平	神経内科	6,600,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
複合的MRI研究によるアパシーの神経機序解明	小野田 慶一	神経内科	910,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
呼吸器領域の臨床試験	礒部 威	呼吸器・化学療法内科	200,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
小細胞肺がん治療のパラダイムシフトを指向した治療研究	礒部 威	呼吸器・化学療法内科	780,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
全国レベルでのデータベースの構築を目指して、SCRUM-Japanへの登録推進と、自施設における臨床データのEDC入力体制の整備	津端 由佳里	呼吸器・化学療法内科	250,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
がん化学療法に伴う好中球減少とNAMPT活性およびSIRT1遺伝子に関する検討	津端 由佳里	呼吸器・化学療法内科	1,690,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ERCC1を用いた高齢者肺癌に対するプラチナ製剤の有用性の検討	沖本 民生	呼吸器・化学療法内科	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

（小計21）

生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの新規治療法・予防法の開発	森田　栄伸	皮膚科	26,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
重症薬疹関連書類の作成、臨床試料収集と関連解析	森田　栄伸	皮膚科	4,030,000	補 委	公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団
医薬品・医療機器の実用化促進のための 評価技術手法の戦略的開発	森田　栄伸	皮膚科	400,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Stevens-Johnson症候群慢性期の診断基準・実態調査と治療法の確立	森田　栄伸	皮膚科	650,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	森田　栄伸	皮膚科	17,394,000	補 委	厚生労働省厚生労働科学研究費補助金
花粉食物アレルギー症候群の抗原毎の病態解析に基づく新規診断法の開発	森田　栄伸	皮膚科	1,820,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
LAMP法による急性感染性発疹症の迅速診断法の確立	新原　寛之	皮膚科	1,430,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
生物種を超えて交差するIgE依存性I型アレルギーの発症機序とCCDの関与の解明	千貫　祐子	皮膚科	1,560,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
研究総括およびOTC欠損症に関する新生児マススクリーニング パイロット研究の運用	小林　弘典	小児科	9,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人発症の脂肪酸代謝異常症患者の診断方法確立と病態解明に関する研究	小林　弘典	小児科	1,690,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
低フォスファターゼ症含む骨形成不全症に対する臍帯由来間葉系細胞(MSC)の非臨床試験	竹谷　健	輸血部	1,800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ゲノム医療の実装に資する臨床ゲノム情報統合データベースの整備と我が国の継続的なゲノム医療実施体制の構築	竹谷　健	小児科	2,000,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
小児白血病におけるAPOBEC3Bの発がん機構の解明	竹谷　健	小児科	1,560,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
ベザフィブラートによるミトコンドリア脂肪酸代謝異常症（FAOD）の治療	山口　清次	小児科	260,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児タンデムマススクリーニング対象疾患の診療ガイドライン改訂、診療の質を高めるための研	山口　清次	小児科	910,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児マススクリーニングのコホート体制、支援体制、および精度向上に関する研究	山口　清次	小児科	11,700,000	補 委	厚生労働省厚生労働科学研究費補助金
新しい先天代謝異常症スクリーニング時代に適応した治療ガイドラインの作成および生涯にわたる診療体制の確立に向けた調査研究	山口　清次	小児科	800,000	補 委	厚生労働省厚生労働科学研究費補助金
乳幼児突然死症候群(SIDS)および乳幼児突発性危急事態(ALTE)の病態解明等と死亡数減少のための研究	山口　清次	小児科	600,000	補 委	厚生労働省厚生労働科学研究費補助金
脂肪酸β酸化障害に基づく小児急性脳症の発症機序解明と治療法の開発	山口　清次	小児科	1,690,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
Runx1を標的とした治療抵抗性小児AMLに対する新たな治療戦略	平出　智裕	小児科	2,210,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
性分化疾患の診断を目的としたタンデムマスによる血中ステロイド一斉分析法の確立	虫本　雄一	小児科	1,300,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
iPS細胞を用いた脂肪酸代謝異常症に対するベザフィブラートの有効性評価法の開発	山田　健治	小児科	1,300,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業
日本における驚愕病の臨床像の解明および病態解析	美根　潤	小児科	1,560,000	補 委	日本学術振興会科学研究費助成事業

【小計23）

膵がん細胞表面に存在する抗原分子の機能解析と早期診断・治療法への応用	田島　義証	肝・胆・膵外科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
症例登録とプロトコール治療実施	平原　典幸	消化器外科	390,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
遺伝的高血圧モデルラットの食塩感受性は腎依存性か:腎交換移植による検討	今井　健介	心臓血管外科	650,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
軟骨前駆細胞を用いた変形性関節症治療法の開発	内尾　祐司	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
アデノシン三リン酸代謝を用いた変形性膝関節症の新徐放性注射薬の研究	熊橋　伸之	整形外科	2,210,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
学校運動器検診によるスポーツ障害の予防	門脇　俊	整形外科	1,000,000	補委	公益財団法人日本スポーツ治療医学研究会
骨粗鬆患者専用骨接合部材の開発	今出　真司	整形外科	2,000,000	補委	島根県
大気圧下プラズマを装備した骨折支援システムの開発	今出　真司	整形外科	1,950,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
miRNAによる去勢抵抗性前立腺癌における治療抵抗性獲得の解明	有地　直子	泌尿器科	650,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
活性化グリアの観点から試みる電気けいれん療法の効果発現メカニズムの解明	橋岡　禎征	精神科神経科	1,560,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
統合失調症発症予防を目指した簡便かつ非侵襲的なスクリーニングシステムの開発	和氣　玲	精神科神経科	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
治療抵抗性統合失調症におけるグリア-ニューロン回路網異常の解明	宮岡　剛	精神科神経科	4,940,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
浜田市における安全、安心な地域周産期医療体制確立に向けた試み	京　哲	産科婦人科	2,600,000	補委	浜田市
地域における新たな婦人科がん診療連携体制の確立	京　哲	産科婦人科	2,600,000	補委	益田地区広域市町村圏事務組合
子宮内膜症幹細胞の探索と分子標的治療に向けた基礎的研究	京　哲	産科婦人科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
卵巣漿液性腺癌の卵管起源説に対する実験的検証と発癌分子機構の解析	京　哲	産科婦人科	5,330,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
GnRHニューロンに対する中枢性制御機構の解明	金崎　春彦	産科婦人科	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ARID1A遺伝子変異を基盤とした卵巣明細胞腺癌発生機構の解明	中山　健太郎	産科婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮平滑筋肉腫における新規分子標的RSF-1の機能解析	石川　雅子	産科婦人科	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
生殖制御ホルモンの中枢性制御機構の解明	折出　亜希	産科婦人科	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規増幅癌遺伝子ZNF217を標的とした卵巣明細胞腺癌の治療開発のための基礎研究	片桐　浩	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
スギ花粉症治療米を用いた新たな舌下免疫療法の展開	川内　秀之	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規脂質酸化マーカーを用いた光照射由来一重項酸素の生体内動態とルテイン効果の検証	大平　明弘	眼科	780,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
黄斑機能に対する黄斑色素の臨床及び基礎的検討	小山　泰良	眼科	1,170,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
緑内障臨床検体ライブラリーを用いた全身及び局所酸化ストレス因子の網羅的解析	谷戸　正樹	眼科	1,820,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
過酸化水素による内因性ペルオキシダーゼ分解を介する放射線効果増強の組織学的検討	猪俣　泰典	放射線治療科	650,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

【小計26)

がん疼痛モデルにおけるオピオイド交差耐性の解明	齊藤　洋司	麻酔科	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄レベルでのκオピオイドの鎮痒と鎮痛の役割を解明する	今町　憲貴	麻酔科	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
プロテオーム解析による自己架橋型組織再生材の修復因子の解明	関根　浄治	歯科口腔外科	780,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
骨伝導能を有する新規生体吸収性足場とヒトiPS細胞を用いた顎骨再生療法の開発	管野　貴浩	歯科口腔外科	2,340,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規 顎関節部治療材 "ナタデココディスク" の開発	吉野　綾	歯科口腔外科	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
アルツハイマー病治療法開発：新規アミロイド凝集抑制薬と高純度間葉系幹細胞移植治療	長井　篤	臨床検査科	1,000,000	補 委	公益財団法人先進医薬研究振興財団
口腔内環境が生活習慣病発症および疾患集積性に及ぼす影響	矢野　彰三	臨床検査科	1,430,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
転倒・骨折リスクに及ぼすサルコペニアの影響	矢野　彰三	臨床検査科	800,000	補 委	一般社団法人 日本農村医学会
日本・アジア青少年サイエンス国際放射線医学交流	野宗　義博	総合診療科	1,286,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
広島大学分担カザフ核実験場周辺住民の放射性降下物被曝の実態解明−線量評価及び健康影響	野宗　義博	総合診療科	100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
患者の視点に基づく日本版プライマリーケア評価ツールの開発	木島　庸貴	総合診療科	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝子修復間葉系幹細胞を用いた低フォスファターゼ症の治療技術開発	小田　泰昭	輸血部	910,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
がん罹患・診療・死亡情報の収集・解析・活用について	鈴宮　淳司	腫瘍センター	9,771,444	補 委	島根県
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の新規難治性病型に対する臨床試験の実施および治療安全性の検討と診療実態調査	鈴宮　淳司	腫瘍センター	1,170,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ロバストパラメータ設計における技術方法論の開発と大規模コンピュータ実験への応用	河村　敏彦	医療情報部	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
時系列データマイニングによる臨床DBからの知識獲得	津本　周作	医療情報部	2,800,200	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
診療クリニカルパス自動生成のためのアクティブマイニングプロセスに関する研究	津本　周作	医療情報部	4,290,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
感染防止対策加算算定病院の感染対策の整備状況および地域連携に関する実態調査	西村　信弘	薬剤部	1,590,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
チロシンキナーゼ阻害薬のPK-PD決定因子の同定	直良　浩司	薬剤部	2,080,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
中枢神経白血病における白血病細胞・血管内皮細胞のROCK1機能解析	大西　千恵	腫瘍センター	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
インシデント自動検知システムの開発に関する研究	廣瀬　昌博	病院医学教育センター	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
分化誘導剤コチレニンAと癌分子標的薬による固形癌細胞の増殖抑制とその分子基盤解析	粕壁　隆	地域医療総合教育センター	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

計　92

207,181,644

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Takeno A, Kanazawa I, Tanaka K,他	内分泌代謝内科	Simvastatin rescues homocysteine-induced apoptosis of osteocytic MLO-Y4 cells by decreasing the expressions of NADPH oxidase 1 and 2.	Endocr J. 2016 Apr 25;63(4):389-95.	Original Article
2	Sugimoto T, Sato M, Dehle FC,他	内分泌代謝内科	Lifestyle-Related Metabolic Disorders, Osteoporosis, and Fracture Risk in Asia: A Systematic Review.	Value Health Reg Issues. 2016 May;9:49-56.	Review
3	Tanaka S, Kanazawa I, Notsu M,他	内分泌代謝内科	Visceral fat obesity increases serum DPP-4 levels in men with type 2 diabetes mellitus.	Diabetes Res Clin Pract.2016 Jun;116:1-6.	Others
4	Koike S, Yano S, Tanaka S,他	内分泌代謝内科	Advanced Glycation End-Products Induce Apoptosis of Vascular Smooth Muscle Cells: A Mechanism for Vascular Calcification.	Int J Mol Sci. 2016 Sep 16;17(9). pii: E1567.	Original Article
5	Tanaka KI, Kanazawa I, Sugimoto T. 他	内分泌代謝内科	Reduced muscle mass and accumulation of visceral fat are independently associated with increased arterial stiffness in postmenopausal women with type 2 diabetes mellitus.	Diabetes Res Clin Pract. 2016 Dec;122:141-147.	Others
6	Miyake H, Kanazawa I, Sugimoto T. 他	内分泌代謝内科	Decreased serum insulin-like growth factor-I level is associated with the increased mortality in type 2 diabetes mellitus.	Endocr J. 2016 Sep 30;63(9):811-818.	Original Article

7	Takeno A, Yamamoto M, Notsu M, 他	内分泌代謝内科	Administration of anti-receptor activator of nuclear factor-kappa B ligand (RANKL) antibody for the treatment of osteoporosis was associated with amelioration of hepatitis in a female	BMC Endocr Disord. 2016 Nov 24;16(1):66.	Case report
8	Yamamoto M, Sugimoto T.	内分泌代謝内科	Advanced Glycation End Products, Diabetes, and Bone Strength.	Curr Osteoporos Rep. 2016 Dec;14(6):320-326.	Review
9	Kanazawa I	内分泌代謝内科	Osteocalcin plays as an endocrine hormone in glucose metabolism.	Frontiers in Clinical Drug Research - Diabetes and Obesity.2016;84-101.	Review
10	Kanazawa I, Tanaka KI, Notsu M,他	内分泌代謝内科	Long-term efficacy and safety of vildagliptin add-on therapy in type 2 diabetes mellitus with insulin treatment.	Diabetes Res Clin Pract .2017 jan;123: 9-17.	Others
11	Kanazawa I, Tomita T, Miyazaki S,他	内分泌代謝内科	Bazedoxifene Ameliorates Homocysteine-Induced Apoptosis and Accumulation of Advanced Glycation End Products by Reducing Oxidative Stress in MC3T3-E1 Cells.	Calcif Tissue Int. 2017 Mar;100(3): 286-297.	Others
12	Miyake H, Kanazawa I, Sugimoto T.	内分泌代謝内科	Decreased Serum Insulin-like Growth Factor-I is a Risk Factor for Non-vertebral Fractures in Diabetic Postmenopausal Women.	Intern Med. 2017 Feb;56(3): 269-273.	Original Article

13	Tanaka KI, Kanazawa I, Kaji H,他	内分泌代謝内科	Association of osteoglycin and FAM5C with bone turnover markers, bone mineral density, and vertebral fractures in postmenopausal women with type 2 diabetes mellitus.	Bone. 2017 Feb; 95: 5-10.	Original Article
14	Tanaka KI, Kanazawa I, Miyake H, 他	内分泌代謝内科	Vitamin D-mediated hypercalcemia in multicentric Castleman's disease.	J Bone Miner Metab. 2017 Jan;35(1): 122-125.	Case report
15	Takahashi T, Kumanomido u S, Takami S, 他	腫瘍・血液内科	A retrospective study of R-CHOP/CHOP therapy-induced nausea and vomiting in non-Hodgkin's lymphoma patients: a comparison of intravenous and oral 5-HT3 receptor antagonists.	Int J Hematol. 2016 Sep;104(3):378-83.	Original Article
16	Kawashima K, Ishihara S, Kinoshita Y.	消化器内科	Successful eradication of Helicobacter pylori infection with vonoprazan-based triple therapy after failure of PPI-based	Dig Liver Dis. 2016 Jun;48(6):688-9.	Others
17	Tada Y, Ishihara S, Kawashima K, 他	消化器内科	Downregulation of serotonin reuptake transporter gene expression in healing colonic mucosa in presence of remaining low-grade inflammation in ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol. 2016 Aug;31(8):1443-52.	Others
18	Kawashima K, Adachi K, Onishi K,他	消化器内科	Usefulness of computed tomography with air insufflation of the stomach prior to percutaneous endoscopic gastrostomy procedure.	J Clin Biochem Nutr. 2016 May;58(3):246-50.	Original Article
19	Ishimura N, Ishihara S, Kinoshita Y.	消化器内科	Sustained Acid Suppression by Potassium-Competitive Acid Blocker (P-CAB) May Be An Attractive Treatment Candidate for Patients with Eosinophilic Esophagitis	Am J Gastroenterol. 2016 Aug;111(8):1203-4.	Letter

20	Kawashima K, Ishihara S, Yuki T,他	消化器内科	Fecal calprotectin level correlated with both endoscopic severity and disease extent in ulcerative colitis.	BMC Gastroenterol. 2016 Apr 12;16:47.	Others
21	Aimi M, Mikami H, Izumi D,他	消化器内科	Evaluation of esophageal intramural pseudo-diverticulosis using high-resolution manometry.	Clin J Gastroenterol. 2016 Oct;9(5):281-4.	Case report
22	Mikami H, Ishimura N, Oka A, 他	消化器内科	Successful Transanal Removal of a Rectal Foreign Body by Abdominal Compression under Endoscopic and X-Ray Fluoroscopic Observation: A Case Report.	Case Rep Gastroenterol. 2016 Nov 7;10(3):646-652.	Case report
23	Kinoshita Y, Sakurai Y, Shiino M,他	消化器内科	Evaluation of the Efficacy and Safety of Vonoprazan in Patients with Nonerosive Gastroesophageal Reflux Disease:A Phase III, Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Multicenter Study.	Curr Ther Res Clin Exp. 2016 Dec 21;81-82:1-7.	Others
24	Mishiro T, Shibagaki K, Matsuda K, 他	消化器内科	Successful Endoscopic Management of Non-Healing Perforated Duodenal Ulcer with Polyglycolic Acid Sheet and Fibrin Glue.	ACG Case Rep J. 2016 Dec 21;3(4):e197.	Case report
25	Oguro H, Mizuhara R, Mitaki S,他	神経内科	Arterial stiffness is correlated with cognitive decline independent of silent brain ischemia	Journal of Neurology and Neurobiology, 2:1-4, 2016	Others
26	Jiao D, Ishimura N, Maruyama R, 他	消化器内科	Similarities and differences among eosinophilic esophagitis, proton-pump inhibitor-responsive esophageal eosinophilia, and reflux esophagitis: comparisons of clinical, endoscopic, and histopathological findings in Japanese	J Gastroenterol. 2017 Feb;52(2):203-210.	Original Article

27	Okimoto E, Ishimura N, Okada M,他	消化器内科	Specific locations of linear furrows in patients with esophageal eosinophilia	Dig Endosc. 2017 Jan;29(1):49-56	Original Article
28	Fukuda N, Ishimura N, Okada M, 他	消化器内科	Mucosal breaks show same circumferential distribution in majority of patients with recurrent reflux esophagitis.	Endosc Int Open. 2017 Mar;5(3):E214-E221	Original Article
29	Kinoshita Y, Ishimura N, Mishiro T,他	消化器内科	Diagnosis and treatment of eosinophilic esophagitis in Japan	Esophagus. 2017Jan, 14(1): 66-75	Review
30	Oguro H, Mizuhara R, Abe S,他	神経内科	Analysis of recurrent stroke volume between VKA (Vitamin K Antagonist) and three NOACs (Non-Vitamin K Antagonist Oral Anticoagulants) under oral anticoagulant therapy	International Journal of Pharmaceutical Sciences Research, 3:1-6, 2016	Original Article
31	Mitaki S, Onoda K, Abe S,他	神経内科	The Effectiveness of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation for Poststroke Apathy Is Associated with Improved Interhemispheric Functional Connectivity	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases, 25: e219-e221, 2016 Dec	Case report
32	Hotta T, Tsubata Y, Okimoto T, 他	呼吸器・化学療法内科	Exogenous lipoid pneumonia caused by herbicide inhalation.	Respirol Case Rep. 2016 Jul 6;4(5):e00172.	Case report
33	Liang S, Yamaguchi K, Yoshitomi H, 他	循環器内科	Factors Influencing the Prognosis of Octogenarians with Aortic Stenosis in the Advanced Aging Societies.	Intern Med. 2016;55(17):2351-8.	Original Article
34	Adachi Y, Endo A, Nakashima R, 他	循環器内科	Renal Artery Stenting Using CO2 Gas Angiography in Combination with Iodinated Contrast Angiography.	Intern Med. 2016;55(17):2419-22.	Case report

35	Okada T, Endo A, Ito S, 他	循環器内科	Acute Coronary Syndrome in a Puerperal Patient with Coronary Artery Ectasia due to a Coronary Artery Fistula.	Intern Med. 2016;55(18):2635-8.	Case report
36	Murata S, Kaneko S, Harada Y,他	皮膚科	Case of de novo psoriasis possibly triggered by nivolumab.	J Dermatol. Epub 2017 Jan;44(1)99-100.	Letter
37	Komatsu-Fujii T, Kaneko S, Chinuki Y,他	皮膚科	Serum TARC levels are strongly correlated with blood eosinophil count in patients with drug eruptions	Allergol Int. 2017 Jan;66(1):116-122	Original Article
38	Kaneko S, Murota H, Murata S,他	皮膚科	Usefulness of Sweat Management for Patients with Adult Atopic Dermatitis, regardless of Sweat Allergy: A Pilot Study	Biomed Res Int. Article ID 8746745, 4 pages,2017	Others
39	Abe M, Pelus LM, Singh P, 他	小児科	Internal Tandem Duplication in FLT3 Attenuates Proliferation and Regulates Resistance to the FLT3 Inhibitor AC220 by Modulating p21Cdkn1a and Pbx1 in Hematopoietic Cells.	PLoS One. 2016 Jul 7;11(7):e0158290.	Others
40	Yasuda K, Minami N, Yoshikawa Y, 他	小児科	Fatal pulmonary arterial hypertension in an infant girl with incontinentia pigmenti.	Pediatr Int. 2016 May;58(5):394-396.	Case report
41	Kobayashi H, Fukuda S, Yamada K,他	小児科	Clinical Features of Carnitine Deficiency Secondary to Pivalate-Conjugated Antibiotic Therapy.	J Pedaitr. 2016 Jun;173:183-7.	Original Article
42	Hirahara N, Matsubara T, Kawahara D, 他	消化器外科	Prognostic value of hematological parameters in patients undergoing esophagectomy for esophageal squamous cell carcinoma.	Int J Clin Oncol. 2016 Oct;21(5):909-919.	Original Article

43	Kawabata Y, Hayashi H, Ishikawa N, 他	肝・胆・膵外科	Total meso-pancreatoduodenum excision with pancreaticoduodenectomy in lower biliary tract cancer.	Langenbecks Arch Surg. 2016 Jun;401(4):463-9.	Original Article
44	Hirahara N, Matsubara T, Mizota Y,他	消化器外科	Prognostic value of preoperative inflammatory response biomarkers in patients with esophageal cancer who undergo a curative thoracoscopic esophagectomy.	BMC Surg. 2016 Sep 20;16(1):66.	Others
45	Kawabata Y, Tanaka T, Ishikawa N,他	肝・胆・膵外科	Modified total meso-pancreatoduodenum excision with pancreaticoduodenectomy as a mesopancreatic plane surgery in borderline resectable pancreatic cancer.	Eur J Surg Oncol. 2016 May;42(5):698-705.	Original Article
46	Hirahara N, Fujii Y, Yamamoto T, 他	消化器外科	Validation of a novel prognostic scoring system using inflammatory response biomarkers in patients undergoing curative thoracoscopic esophagectomy for esophageal squamous cell carcinoma.	Onco Target Ther. 2017 Jan 13;10:363-370.	Others
47	Hirahara N, Matsubara T, Kawahara D, 他	消化器外科	Prognostic significance of preoperative inflammatory response biomarkers in patients undergoing curative thoracoscopic esophagectomy for esophageal squamous cell carcinoma.	Eur J Surg Oncol._2017 Feb 43(2):493-501.	Original Article
48	Uchio Y	整形外科	Mechanoreceptors in the ACL	ACL Injury and Its Treatment: 51-65, 2016	Others
49	Kumahashi N, Kuwata S, Takuwa H,他	整形外科	Longitudinal Change of Medial and Lateral Patellar Stiffness After Reconstruction of the Medial Patellofemoral Ligament for Patients with Recurrent Patellar Dislocation.	J Bone Joint Surg Am. 2016 Apr 6;98(7):576-583.	Others

50	Kumahashi N, Kuwata S, Imade S,他	整形外科	Osteomyelitis of the navicular bone: a case report	Journal of Pediatric Orthopaedics. Part B. 2017 Jan 17	Case report
51	Wakatsuki T, Imade S, Uchio Y.	整形外科	Avulsion fracture of the calcaneal tuberosity treated using a side-locking loop suture (SLLS) technique through bone tunnels.	J Orthop Sci. 2016 Sep;21(5):690-3.	Case report
52	Hagiwara S, Miyazaki T, Tsuji M,他	脳神経外科	A Case of De Novo Anterior Condylar Dural Arteriovenous Fistula Long after Curative Transvenous Embolization of Contralateral Anterior Condylar Arteriovenous Fistula.	Case Rep Med. 2016;2016:6974526.	Case report
53	Wake R, Miyaoka T, Furuya M,他	精神科神経科	Effects of Yokukansan, a Japanese Kampo Medicine for Symptoms Associated Autism Spectrum Disorder.	CNS Neurol Disord Drug Targets. 2016;15(5):551-63.	Others
54	Hayashida M, Hashioka S, Miki H,他	精神科神経科	Aceruloplasminemia With Psychomotor Excitement and Neurological Sign Was Improved by Minocycline (Case Report).	Medicine(Baltimore). 2016 May;95(19):e3594.	Case report
55	Hashioka S, Suzuki H, Nakajima D, 他	精神科神経科	Metabolomics analysis implies noninvolvement of the kynurenine pathway neurotoxins in the interferon-γ-induced neurotoxicity of adult human astrocytes.	Neuropsychiatry 7(1): 610-617, 2016	Others
56	Limoa E, Hashioka S, Miyaoka T,他	精神科神経科	Electroconvulsive shock attenuated microgliosis and astrogliosis in the hippocampus and ameliorated schizophrenia-like behavior of Gunn rat.	J Neuroinflammation. 2016 Sep 2;13(1):230.	Others

57	Inoue K, Fujita Y, Takeshita H, 他	精神科神経科	The need for prompt measures to prevent people age 70 or over and juveniles and adolescents from going missing: the importance of devising specific measures to deal with behavior caused by dementia, other illnesses, or family problems.	International Medical Journal 23(6): 641-643, 2016	Others
58	Nakamura K, Nakayama K, Ishikawa M, 他	産科・婦人科	Letrozole as second-line hormonal treatment for recurrent low-grade endometrial stromal sarcoma: A case report and review of the literature.	Oncol Lett. 2016 Nov;12(5):3856-3860.	Others
59	Oride A, Kanasaki H, Mijiddorj T, 他	産科・婦人科	Expression and Regulation of Pituitary Adenylate Cyclase-Activating Polypeptide in Rat Placental Cells.	Reprod Sci. 2016 Aug;23(8):1080-6.	Others
60	Nakamura K, Nakayama K, Ishikawa M, 他	産科・婦人科	Utility of ovarian biopsy in pancreatic metastasis of high-grade serous ovarian carcinoma: a case report.	Mol Clin Oncol. 2016 Jul;5(1):41-43.	Case report
61	Nakamura K, Nakayama K, Nagaoka R, 他	産科・婦人科	The diagnostic utility of PAX8 immunostaining of malignant peritoneal mesothelioma presenting as serous ovarian carcinoma: A single-center report of two cases.	Oncol Lett. 2017 Jan;13(1):263-266.	Case report
62	Kyo S, Kato T, Nakayama K.	産科・婦人科	Current concepts and practical techniques of nerve-sparing laparoscopic radical hysterectomy.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2016 Dec;207:80-88.	Review
63	Kanasaki H, Oride A, Hara T,他	産科・婦人科	Interactions between Two Different G Protein-Coupled Receptors in Reproductive Hormone-Producing Cells: The Role of PACAP and Its Receptor PAC1R.	Int J Mol Sci. 2016 Sep 26;17(10). pii: E1635.	Review

64	Hara T, Kanasaki H, Oride A,他	産科・婦人科	Case of a woman with acromegaly whose presenting complaint was prolonged post-partum amenorrhea.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Oct;42(10):1379-1384.	Case report
65	Nakayama N, Kato H, Sakashita G, 他	産科・婦人科	Protein complex formation and intranuclear dynamics of NAC1 in cancer cells.	Arch Biochem Biophys. 2016 Sep 15;606:10-5.	Others
66	Ishikawa M, Nakayama K, Ishibashi T, 他	産科・婦人科	Case series of cerebral infarction with Trousseau's syndrome associated with malignant gynecological tumors.	Mol Clin Oncol. 2016 Jul;5(1):138-142.	Others
67	Sukhbaatar U, Kanasaki H, Mijiddorj T,他	産科・婦人科	Expression of GnRH and Kisspeptin in Primary Cultures of Fetal Rat Brain.	Reprod Sci. 2017 Feb;24(2):227-233.	Others
68	Nakamura K, Nakayama K, Ishikawa M, 他	産科・婦人科	High Pre-treatment Plasma D-Dimer Level as a Potential Prognostic Biomarker for Cervical Carcinoma.	Anticancer Res. 2016 Jun;36(6):2933-8.	Others
69	Nakamura K, Nakayama K, Ishibashi T, 他	産科・婦人科	KRAS/BRAF Analysis in Ovarian Low-Grade Serous Carcinoma Having Synchronous All Pathological Precursor Regions.	Int J Mol Sci. 2016 Apr 26;17(5). pii: E625.	Others
70	Nakamura K, Nakayama K, Ishikawa M, 他	産科・婦人科	Efficacy of microwave ablation for the treatment of endometrial carcinoma: A report of 3 cases.	Oncol Lett. 2016 May;11(5):3025-3027.	Others
71	Nakamura K, Nakayama K, Ishikawa M, 他	産科・婦人科	High pretreatment plasma D-dimer levels are related to shorter overall survival in endometrial carcinoma.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2016 Jun;201:89-93.	Others
72	Oride A, Kanasaki H, Ishihara T,他	産科・婦人科	Rare case of complicated congenital anomalies of female reproductive organs with bilateral undescended ovaries.	J Obstet Gynaecol Res. 2016 Jul;42(7):895-898.	Case report

73	Nakamura K, Nakayama K, Nagaoka R, 他	産科・婦人科	The diagnostic utility of PAX8 immunostaining of malignant peritoneal mesothelioma presenting as serous ovarian carcinoma: A single-center report of two cases	Oncol Lett. 2017 Jan; 13(1): 263-266.	Others
74	Sato E, Nakayama K, Ishikawa M, 他	産科・婦人科	High-grade serous ovarian cancer 3 years after bilateral salpingectomy: A case report	Mol Clin Oncol. 2017 Feb; 6(2): 201-203	Others
75	Sato E, Nakayama K, Nakamura K, 他	産科・婦人科	Efficacy of metformin for advanced-stage endometrial cancer: A case report.	Mol Clin Oncol. 2017 Mar; 6(3): 441-443.	Others
76	Mijiddorj T, Kanasaki H, Sukhbaatar U,他	産科・婦人科	Retinoic acid and retinaldehyde dehydrogenase are not involved in the specific induction of the follicle-stimulating hormone β subunit by trichostatin A, a selective inhibitor of histone deacetylase	Gen Comp Endocrinol. 2017 ;242:59-65. doi: 10.1016/j.ygcen.2015.	Others
77	Nakamura K, Nakayama K, Nagaoka R,他	産科・婦人科	The diagnostic utility of PAX8 immunostaining of malignant peritoneal mesothelioma presented as serous ovarian carcinomas: A single center experience of two cases.	Oncol Lett. 2017 Jan; 13(1): 263-266.	Others
78	Sato E, Nakayama K, Ishikawa M, 他	産科・婦人科	High-grade serous ovarian cancer 3 years after bilateral salpingectomy: A case report	Mol Clin Oncol. 2017 Feb; 6(2): 201-203.	Others
79	Sukhbaatar U, Kanasaki H, Mijiddorj T,他	産科・婦人科	Expression of GnRH and Kisspeptin in Primary Cultures of Fetal Rat Brain	Reprod Sci. 2017 Feb;24(2)227-233	Others
80	Tanito M, Kaidzu S, Takai Y,他	眼科	Association between systemic oxidative stress and visual field damage in open-angle glaucoma.	Sci Rep. 2016 May 11;6:25792.	Others

81	Yoshizako H, Hara K, Takai Y,他	眼科	Comparison of macular pigment and serum lutein concentration changes between free lutein and lutein esters supplements in Japanese subjects.	Acta Ophthalmol. 2016 Sep;94(6):e411-6.	Original Article
82	Takai Y, Tanito M, Sugihara K, 他	眼科	TEMPORAL INVERTED INTERNAL LIMITING MEMBRANE FLAP TECHNIQUE FOR A MACULAR HOLE PATIENT UNABLE TO MAINTAIN POSTOPERATIVE PRONE POSITIONING.	Retinal Case & Brief Report 10(4): 323-326, 2016	Case report
83	Gobara A, Yoshizako T, Yoshida R,他	放射線科	Magnetic resonance imaging features of massive ovarian edema in pregnancy: utility for decisions in expectant management.	Springerplus. 2016 Aug 30;5(1):1444.	Case report
84	Nishiyama Y, Tada K, Nishiyama Y, 他	放射線科	Effect of the forward-projected model-based iterative reconstruction solution algorithm on image quality and radiation dose in pediatric cardiac computed tomography.	Pediatr Radiol. 2016 Nov;46(12):1663-1670.	Original Article
85	Yada N, Onishi H.	放射線科	Validation of Computed Tomography-based Attenuation Correction of Deviation between Theoretical and Actual Values in Four Computed Tomography Scanners.	Asia Ocean J Nucl Med Biol. 2016 Summer;4(2):81-9.	Others
86	Kanno T, Tatsumi H, Karino M,他	歯科口腔外科	Applicability of an Unsintered Hydroxyapatite Particles/Poly-L-Lactide Composite Sheet with Tack Fixation for Orbital Fracture Reconstruction	Journal of Hard Tissue Biology, 25(3): 329-334, 2016.	Others

87	Nariai Y, Kanno T, Sekine J.	歯科口腔外科	Histopathological Features of Secondary Squamous Cell Carcinoma Around a Dental Implant in the Mandible After Chemoradiotherapy: A Case Report With a Clinicopathological Review.	J Oral Maxillofac Surg. 2016 May;74(5):982-90.	Case report
88	Watanabe M, Kanno T, Sekine J.	歯科口腔外科	Relieving neuropathic pain of the mental nerve by vertical bone augmentation between the mental foramina: A novel technique in place of conventional inferior alveolar nerve transposition.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology, 28(5): 397-400, 2016.	Others
89	Kanno T, Sukegawa S, Tatsumi H,他	歯科口腔外科	Does a Retromandibular Transparotid Approach for the Open Treatment of Condylar Fractures Result in Facial Nerve Injury?	J Oral Maxillofac Surg. 2016 Oct;74(10):2019-32.	Others
90	Kanno T, Okuma S, Karino M, 他	歯科口腔外科	Unexpected Plate Fracture in a Three-Dimensional Subcondylar Locking Plate System	Journal of Hard Tissue Biology 25[4] (2016) 442-446	Others
91	Ishikawa N, Nagase M, Takami S,他	病理診断科	A Case Report of Bilateral Sarcomatoid Carcinoma of Adrenal Glands With Adrenal Insufficiency.	Int J Surg Pathol. 2016 Dec;24(8):743-748.	Case report
92	Araki A, Chocholous M, Gojo J,他	病理診断科	Chromosome 1q gain and tenascin-C expression are candidate markers to define different risk groups in pediatric posterior fossa ependymoma.	Acta Neuropathol Commun. 2016 Aug 22;4(1):88.	Others
93	Araki A, Ishikawa N, Takami S,他	病理診断科	Interpretation of postmortem head computed tomography for non-traumatic in-hospital deaths by non-radiologists: a preliminary study.	Springerplus. 2016 Jul 4;5(1):978.	Others

94	Tadenuma T, Uchio Y, Kumahashi N, 他	整形外科	Delayed gadolinium-enhanced MRI of cartilage and T2 mapping for evaluation of reparative cartilage-like tissue after autologous chondrocyte implantation associated with Atelocollagen-based scaffold in the knee.	Skeletal Radiol. 2016 Oct;45(10):1357-63.	Others
95	Kasukabe T, Honma Y, Okabe-Kado J,他	地域医療総合教育センター	Combined treatment with cotylenin A and phenethyl isothiocyanate induces strong antitumor activity mainly through the induction of ferroptotic cell death in human pancreatic cancer cells.	Oncol Rep. 2016 Aug;36(2):968-76.	Others

計95件

(注) 1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例:　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計　件

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	有・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・手順書の主な内容 医学系研究として申請されたものについて審査を行う。 委員会の責務、構成、審査・報告事項、審査方法、審査・報告の受付、会議の招集と議長、成立要件、審査手順、議事要旨の作成、審査結果の通知、審査後の対応、他の研究機関からの審査依頼、記録の保管　等	
③　倫理審査委員会の開催状況	年１２回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・規定の主な内容 目的、対象及び基準、委員会の設置、委員会所掌事項、審査・結果に基づく要請等、守秘義務　等	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年１２回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年１回
・研修の主な内容（4回シリーズ） 臨床試験の新しい相、臨床試験で知っておくべき統計的最小要件、捏造論文から学ぶ生物統計学、改正倫理指針の概要と対応 （研究倫理の基本的事項はCITI Japan e-learningを利用）	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

「地域医療と先進医療が調和する大学病院」を理念とした研修指導医数の豊富な臨床研修施設であり，卒前卒後のシームレスな医学教育を提供し，地域病院間ネットワークを有する基幹病院として新専門医制度に対応した専門研修プログラムを提供している。

プログラム作成には若手医師のキャリア形成支援を担当するしまね地域医療支援センター，各診療科，県内医療機関等が連携して，基本領域の専門医やサブスペシャリティーの専門医，あるいは同時に医学博士の学位取得を目標とした専門研修プログラムを作成している。

また，新専門医制度に対応した体制整備を行った。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	８６　人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
杉本　利嗣	内分泌代謝内科	科長	３９年	
鈴宮　淳司	腫瘍・血液内科	科長	３３年	
木下　芳一	消化器内科	科長	３７年	
佐藤　秀一	肝臓内科	科長	２４年	
山口　修平	神経内科	科長	３８年	
村川　洋子	膠原病内科	科長	２３年	
礒部　威	呼吸器・化学療法内科	科長	３１年	
伊藤　孝史	腎臓内科	科長	２５年	
田邊　一明	循環器内科	科長	３２年	
森田　栄伸	皮膚科	科長	３５年	
竹谷　健	小児科	科長	２１年	
平原　典幸	消化器外科	科長	２６年	
田島　義証	肝・胆・膵外科	科長	３４年	
久守　孝司	小児外科	科長	３０年	
板倉　正幸	乳腺・内分泌外科	科長	３３年	
織田　禎二	心臓血管外科	科長	３５年	
岸本　晃司	呼吸器外科	科長	２８年	
内尾　祐司	整形外科	科長	３１年	
秋山　恭彦	脳神経外科	科長	２７年	
椎名　浩昭	泌尿器科	科長	３２年	
堀口　淳	精神科神経科	科長	３７年	
京　哲	産科	科長	３１年	
京　哲	婦人科	科長	３１年	
川内　秀之	耳鼻咽喉科	科長	３４年	
大平　明弘	眼科	科長	３９年	
北垣　一	放射線科	科長	３３年	
猪俣　泰典	放射線治療科	科長	３２年	
齊藤　洋司	麻酔科	科長	３３年	

仁科　雅良	救急科	科長	３６年	
関根　浄治	歯科口腔外科	科長	２８年	
長井　篤	臨床検査科	科長	２８年	
丸山　理留敬	病理診断科	科長	３６年	
馬庭　壯吉	リハビリテーション科	科長	１５年	

（注）１　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）２　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）３　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　　②．現状
管理責任者氏名	病院長　井川　幹夫
管理担当者氏名	検査部長　長井　篤、放射線部長　北垣　一、手術部長　佐倉　伸一、 薬剤部長　直良　浩司、看護部長　神田　眞理子、 ＭＥセンター長　藤本　欣史、医学部総務課長　嘉本　龍二、 医学部医療サービス課長　渡部　晃、医学部会計課長　松浦　政裕、 総務部総務課長　福間　栄子

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療サービス課 手術部 薬剤部 検査部 放射線部 看護部	カルテ等の病歴資料は、入院・外来別に１患者１ファイル方式で管理し、エックス線写真は放射線部で患者毎に管理している。なお、平成18年9月の電子カルテ導入後、電子化されたものは病院情報管理システムのデータベース上で、患者IDをキーにして管理されている。 ○診療録を病院外へ持ち出す際の取扱い ・紙診療録は、医学部外に帯出しないこととして、閲覧者への遵守事項としている。 ・電子的に保存された診療録及び診療記録に係る情報の利用は、本院が定める利用要項に基づいた申請により、了承されたものとしており、原則学外へ持ち出すことを禁じている
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課	
		高度の医療の提供の実績	医学部医療サービス課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課 医学部会計課	
		高度の医療の研修の実績	医学部総務課	
		閲覧実績	医学部医療サービス課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医療サービス課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医療サービス課及び薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げ	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医学部医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医学部医療サービス課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医学部医療サービス課	
		医療機関内における事故報告等	医学部医療サービ	

		の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	ス課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医学部医療サービス課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医学部医療サービス課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医学部医療サービス課及びMEセンター	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医学部医療サービス課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医学部医療サービス課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医学部医療サービス課及び薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医学部医療サービス課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医学部医療サービス課	
		医療安全管理部門の設置状況	医学部医療サービス課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医学部医療サービス課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医学部医療サービス課	
		監査委員会の設置状況	医学部医療サービス課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医学部医療サービス課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医学部医療サービス課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医療サービス課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課	
		職員研修の実施状況	医学部医療サービス課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医学部医療サービス課	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第 6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　②．現状	
閲覧責任者氏名	医学部事務部長　　長塚 正明	
閲覧担当者氏名	医療サービス課長　渡部　晃	
閲覧の求めに応じる場所	附属病院2階カルテ閲覧室	

閲覧の手続の概要

紙診療録の閲覧を希望する者は、診療録閲覧申込書に所要事項を記入し病歴担当者へ申し出た上で、カルテ閲覧室において閲覧する。閲覧後は、病歴担当者へ返却する。

病院が保有する行政文書の開示を求められた場合は、情報公開委員会規則に則り、意見を求められた事項について審議する。上記以外の諸記録等の閲覧の求めがあった場合は、病院長の許可を得る。

また、病院のHP上で、患者数、職員数、病院指標等掲載し、自由に閲覧可能としている。

（注）既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

（注）特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

（様式第 6）

規則第１条の 11 第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊒・無

・ 指針の主な内容：
はじめに
「医療安全文化を維持向上させるために」
1 安全管理に関する基本方針
島根大学医学部附属病院における安全管理に関する基本方針
2 医療事故防止の基本
3 医療事故防止に関する基本用語
4 インフォームド・コンセント
5 安全管理体制に関する基本用語
6 医療事故を未然に防止するための体制
7 医療事故等が発生した場合（緊急時）の対応
8 医療従事者と患者との情報の共有
9 患者からの相談
10 職員研修
11 高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等による医療の提供に関する基準
12 医療安全の推進のために必要なその他の事柄

② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

・ 設置の有無（ ㊒・無 ）
・ 開催状況：年 １２回
1 医療安全管理委員会
2 リスクマネジャー会議
・ 活動の主な内容：
1 医療安全管理委員会
1）医療事故等の原因究明のための調査及び分析並びに医療安全の確保を目的とした改善の方策の立案及び実施並びに周知に関すること
2）医療事故等の改善の方策の実施状況の調査及びその方策の見直しに関すること
3）医療事故に係る患者及びその家族への対応に関すること
4）安全管理のための職員の教育・研修に関すること
5）医薬品の安全使用に関すること
6）医療機器の安全使用に関すること
7）高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否等に関すること
8）未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等に関すること
9）その他医療の安全管理に関すること
・医療安全を考える月間、医療安全推進週間について
・医療安全訪問について
・入院患者が死亡した場合、若しくは、死亡以外の場合であって通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になった場合、医療安全管理部へ報告する。医療安全管理部で検証した結果を病院長へ報告し、当該委員会に提出する。
・上記の従事者の報告が不十分な場合、適切な報告のため、指導を行う。
2 リスクマネジャー会議
1）安全確保のために点検の実施に関すること
2）当該診療科等の構成員に対し、安全確保のための指導の実施に関すること
3）リスクマネジャー会議への参画に関すること
4）その他、医療事故防止に関すること

③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年１２回

・　研修の主な内容：
　１　「医療事故の経験から伝えたいこと」
　２　「ＭＲＩの管理　～見えない磁力に対する危険性～」
　３　「ちょっと気になる造影ＣＴ」
　４　e-ラーニング
　　「医療安全の基本を知る（動画講義～）
　５　医療安全　～知っておきたい５つのポイント～
　６　「放射線治療計画装置における安全使用に向けた取り組み」
　７　「安全な保育器の使用について」
　８　補助循環の安全管理について
　９　人工呼吸器の安全管理について
　10　「ＤＣの使用方法について」（Ｒ波同期について）
　11　「ＡＥＤの使用方法について」
　12　気になる、あの体重の話　安全な透析をするために行っている１０の事

④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

・　医療機関内における事故報告等の整備　（ 有・無 ）
・　その他の改善のための方策の主な内容：
　１　インシデントレポートを分析し、対応策についてリスクマネジャー会議で周知
　２　院内ラウンドの強化
　３　リスクまねじめんと通信に毎月の事例の内容を盛り込んで発行
　４　インシデントレポート入力方法に対する研修会
　５　分析ツールを用いた事例の分析と評価の件数を増加させるため部署内のカンファレンスに専任リスクマネジャー
　６　インシデントレポート内容の要約について各部署への提供

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・　指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会等の組織 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針 7. 院内における感染対策の推進のために必要な基本方針	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年１２回
・　活動の主な内容： 1. 感染制御部の運営、業務の企画に関すること 2. 感染の予防に関すること 3. 予防対策実施の指導に関すること 4. 感染予防の教育に関すること 5. 院内感染の原因調査、経過の追跡、整備及び分析等に関すること 6. その他感染対策に関すること	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年２３回
・　研修の主な内容： ・全職員対象研修会 第１回「結核は　忘れた頃に　やってくる」 第２回「感染対策マニュアルの改訂ポイント」 第３回「感染症の基礎知識」 ・新規採用者（中途採用者）「医療安全・感染対策」研修会 （新規採用者研修　１回、中途採用者研修　２回） ・新規採用医科歯科研修医オリエンテーション「院内感染予防対策について」 ・看護部新入職員オリエンテーション「今日から始める感染対策」 ・看護師中途採用者研修「当院での感染対策」（計３回） ・看護助手中途採用者研修「感染対策の基本」（計２回） ・ＭＳＷ中途採用者研修「感染対策について」 ・看護師職場復帰支援研修「感染対策について」 ・スキルアップセンター講習会「基礎から学ぶ感染対策のポイント」 ・看護師対象研修会「尿道留置カテーテル管理」 ・看護師対象研修会「眼の曝露の現状と予防対策」「針刺し防止対策と静脈留置針の適正使用」 ・Ｎ９５マスク装着指導 ・外部委託業者（清掃・廃棄物）対象研修会「手指衛生について」 ・薬剤部実習生対象研修会「感染対策の基本」 ・全職員対象（任意）研修会「Ｔ－ＳＰＯＴについて」 ・医学部５年生ミニレクチャー「感染対策の基本」	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・　病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無　）	

・　その他の改善のための方策の主な内容：
・各部署をラウンドし状況を確認、情報収集のうえ指導する。
・週１回開催する週ミーティング時に、感染情報 Web を展開して感染症状況、抗菌薬使用状況を分析し、それに基づき現場にて指導する。
・必要時に関係者を招集し会議を開催、発生の原因を分析・協議し、改善策の立案及び実施の指導ならびに他部署への周知を図る。

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第６）

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年４４回 （平成28年度）
・　研修の主な内容：別紙５ 1.　看護部採用者入職時研修：新任看護師に知っておいてほしい基礎的な薬剤管理 2.　医員研修会：処方時の留意点、副作用報告について 3.　フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 4.　医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために」 5.　医療安全研修会：ちょっと気になる造影CT！ 6.　新人看護職静脈注射研修：薬剤の基礎知識と管理 （薬剤部内の研修会） 製品説明会／病棟・部署研修会等：年34回（平成28年度）	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　（(有)・無　） ・　業務の主な内容：別紙６	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　（(有)・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容：別紙７	

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年６回
・　研修の主な内容： １　「放射線治療計画装置における安全使用に向けた取り組み」 ２　「安全な保育器の使用について」 ３　補助循環の安全管理について ４　人工呼吸器の安全管理について ５　除細動・ＡＥＤについて ６　血液浄化について	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　（(有)・無） ・　保守点検の主な内容： １　始業点検・終業点検 ２　外部委託によるオーバーホール，院内でのオーバーホール ３　外部委託による定期保守・緊急保守（故障・修理）	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　（(有)・無） ・　その他の改善のための方策の主な内容： （情報収集の方法） １　平成１９年３月３０日医政指発第０３３０００１号第４．３に基づき、製造販売業者等から不具合が生じた機器に関する情報を収集している。 ２　臨床工学技士の研修会及び講習会参加により種々情報を収集している。 ３　島根県出雲保健所から、人工呼吸器の医療安全対策に係る情報を収集している。 ４　インターネットによる医療事故情報にて情報を収集している。 （情報の周知方法） １　上記により収集した情報を医療機器安全管理責任者から病院長に報告をすると共に、該当設置部署、会計課及びＭＥセンターに文書及び口頭にて周知している。 ２　医療機器の安全使用のための研修会にて情報の周知を行っている。 ３　医療機器管理システムによる情報発信（予定） ４　放射線機器に関する情報は、部内メール、もしくは回覧にて周知している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第９条の 23 第１項第１号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無

・責任者の資格 (医師)・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

月１回開催される医療安全管理委員会において、医薬品の安全使用のための業務、規約等の整備、情報の収集、従事者への研修状況について医薬品安全管理責任者から、また、医療機器の安全使用のための業務、規約等の整備、情報収集、従事者への研修状況について、医療機器安全責任者より報告を受け、適切な実施のための指示を行う。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（ １名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況

・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況

1 院内の医薬品使用状況の把握

➢ DSU に基づいた医薬品の使用状況の定期的な確認

平成 28 年度総件数：15 件、医薬品安全性情報(院内)発出件数：6 件

① 2016. 9.29 レベチラセタムによる急性腎不全について
② 2016. 9.29 C 型肝炎治療中の B 型肝炎ウイルス再活性化について
③ 2016.11. 9 アピキサバン（エリキュース）による肝機能障害について
④ 2016.11. 9 C 型肝炎治療薬使用による高血圧について
⑤ 2016.12.27 Bcr-Abl チロシンキナーゼ阻害剤投与時の B 型肝炎ウイルス感染の確認について
⑥ 2017. 3. 3 レベチラセタムによる急性腎不全について（再通知）

2 各種情報の整理

➢ 医薬品集の改訂：2017.1 第 17 版（追補版）発行
➢ 採用医薬品リストの改訂：平成 28 年度薬事専門部会 4 回

第 1 回 2016. 5.10
第 2 回 2016. 7.27
第 3 回 2016.10.28
第 4 回 2017. 1.24

3 医薬品安全管理責任者への報告

➢ DSU に基づいた医薬品の使用状況の定期的な報告

平成 28 年度総件数：15 件、医薬品安全性情報(院内)発出件数：6 件

➢ 院内副作用情報への対応

2016. 6.21 カルバマゼピン製剤による SJS および TEN について
2017. 9.13 炭酸リチウム投与中の血中濃度測定遵守について
2017. 9.14 リツキシマブによる突発性好中球減少症について

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

1 処方した医薬品が未承認等に該当するか否かの把握

➢ 使用が認められた未承認等の医薬品については、薬剤部ホームページに掲示し、院内および薬剤部内に周知を図った。

2 リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認

➢ 薬剤師による処方の妥当性等の確認状況

平成 28 年度実績：16 件

① 頭部外傷患者へのワーファリン投与
② 透析患者へのモービック投与
③ 腎不全患者へのリクシアナ投与
④ 総胆管結石患者へのリファジン投与
⑤ 心機能低下患者に対するトビエース投与
⑥ 血糖高値患者へのジプレキサ投与
⑦ ムコール症に対するアムビゾームの大量療法
⑧ アセトアミノフェンによる急性肝障害でない患者への N-アセチルシステイン投与
⑨ タンデトロンによる慢性動脈閉塞症でない患者への投与
⑩ 動脈管依存性先天心疾患における動脈管の開存目的でタンデトロン 500μg の投与
⑪ 息止め発作に対する Levetiracetam の投与
⑫ 統合失調症患者への炭酸リチウムの投与
⑬ TLS 発症時のラスリテックの投与
⑭ うつ病患者へのジプレキサ投与
⑮ 高齢者に対してのベルソムラ 35mg/日の投与
⑯ 重症熱傷患者に対するグルタミン補充療法

・担当者の指名の有無（有・無）
・担当者の所属・職種：
（所属：薬剤部　、職種：薬剤師・医薬品情報管理室担当）
（所属：医療安全管理部、職種：薬剤師・GRM）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（有・無）
・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：規程の遵守状況を定期的に確認し、確認の結果、適切でない事例が認められる場合は、必要な指導を行うとともに、当該事例を病院の各部署に通知し、又は研修会を行い、適切に説明が行われるようにする。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：
1. カンファレンスが適切に行われているか（適時、カルテへの記載内容）、あるいは情報の共有が適切に行われているか
2. インフォームド･コンセントが適切に行われているか（適時、カルテへの記載内容）
3. 他科の医師との連携は適切に行われているか（適時、カルテへの記載内容、その他）
4. 主治医はその役割を適切に果たしているか
5. 診療、看護の方針は適切に立案、実行されているか（医師は診断経過から治療方針が導き出されているか、看護師は看護診断が適切に行われ、看護計画の立案とそれに基づいた看護介入が行われているか）
6. その他問題と考えられる事項（改善すべき事項）はあるか

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無

・

1　医療安全対策の推進のための指導・管理。
2　事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
3　患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を

行うこと。
4　インフォームド・コンセントに関する確認及び指導など。
5　事故等の原因究明が適切に実施されていること，その他の対応状況の確認及びその確認結果に基づく必要な指導を行うこと。
6　医療安全に係る連絡調整に関すること。
7　医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。
8　医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。
9　安全管理に関する教育・研修・及び安全管理に関する意識の向上の状況確認に関すること。
10　医療事故調査制度に係る連絡調整に関すること。
11　医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の事務に関すること。

モニタリングの具体例
・患者まちがい
・インスリン関連インシデント
・輸血実施手順
・投薬手順
・転倒転落率

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
・活動の主な内容：

高難度新規医療技術評価委員会の評価について、審議及び可否の決定をする。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等・適応外使用評価委員会の評価について審議及び可否を決定する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（ 有・無 ）

⑨ 監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年２回

・活動の主な内容：

島根大学医学部附属病院の医療安全の取組状況について監査し、必要に報じて是正措置等を講ずるよう指導・助言を行う。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ 有・無 ）

・委員名簿の公表の有無（ 有・無 ）

・委員の選定理由の公表の有無（ 有・無 ）

・公表の方法：

島根大学医学部附属病院のホームページに公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
中山　健吾	島根県病院局	○	医療安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
中島　健二	独立行政法人国立病院機構松江医療センター		〃	有・無	1
二國　則昭	弁護士法人広島みらい法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
坂本　達夫	塩冶コミュニティセンター		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩　入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年４１４件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年４件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

病院内で発生した出来事などを収集・分析し、検討する。

⑪　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：琉球大学医学部附属病院） ・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：熊本大学医学部附属病院） ・無）

・技術的助言の実施状況

平成 29 年 11 月末実施予定

⑫　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院内の医療相談室内に患者相談部門を設置し、活動の趣旨、設置場所、責任者、対応時間について病院受付に明示している。主に患者相談部門担当者がその対応にあたっている。医療安全管理者は患者相談部門の担当者と連携を密にして情報を共有し、患者、家族の相談に応じる体制を整備している。患者の意向を尊重し相談による不利益を与えることなく、プライバシー保護にも配慮している。

相談内容が重要と判断した場合は、その部署責任者にインシデント報告の提出を依頼し、医療安全管理委員会等で検討後、対応を関連部署や病院全体に周知して業務の改善をはかる体制としている。

⑬　医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ）

・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ 有・無 ）

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ）

⑭　職員研修の実施状況

・研修の実施状況

第１回	「医療事故の経験から伝えたいこと」	H28. 8. 1
第２回	「ＭＲＩの管理　～見えない磁力に対する危険性～」	H28. 10. 31
	「ちょっと気になる造影ＣＴ」	
第３回	e－ラーニング	H28. 12. 14～H29. 3. 20
	「医療安全の基本を知る（動画講義」	
第４回	医療安全　～知っておきたい５つのポイント～	H29. 3. 16

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 医薬品安全管理責任者　平成２８年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

医薬品の安全使用のための研修会　　（平成28年度）　　別紙5

1）院内全体の研修会

月/日	研修内容
4/4	看護部採用者入職時研修：新任看護師に知っておいてほしい基礎的な薬剤管理　（76名）
4/5	医員研修会：処方時の留意点、副作用報告について　（30名）
5/10	フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 （アブストラル舌下錠、イーフェンバッカル錠を処方する医師の必須研修）（31名）
5/24	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために（第1回）」（51名）
5/27	医薬品安全使用のための研修会「医療用麻薬の適正な取り扱いのために（第2回）」（47名）
6/15	フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 （アブストラル舌下錠、イーフェンバッカル錠を処方する医師の必須研修）（35名）
7/19	フェンタニルレスキュー製剤の適正使用に関する研修会 （アブストラル舌下錠、イーフェンバッカル錠を処方する医師の必須研修）（18名）
10/31	医療安全研修会：ちょっと気になる造影CT！　（1529名）
11/30	新人看護職静脈注射研修：薬剤の基礎知識と管理　（28名）
12/6	新人看護職静脈注射研修：薬剤の基礎知識と管理　（26名）

2)薬剤部内の研修会

月/日	研修内容
4/7	製品説明会：「グラニセトロン内服ゼリー2mg「ケミファ」」、「ライゾデグ配合注 フレックスタッチ」（25名）
4/14	製品説明会：「デュファストン錠5mg」、「ピートルチュアブル錠250mg、500mg」 病棟・部署研修会（31名）
4/21	製品説明会：「マリゼブ錠25mg」、「PPSB-HT静注用500単位「ニチヤク」」（27名）
5/12	製品説明会：「レパーサ皮下注140mgシリンジ、140mgペン」、「ゼビアックスローション2%」 病棟・部署研修会（30名）
5/19	製品説明会：「スクエアキッズ皮下注シリンジ」、「モーラスパップXR120mg」（31名）
5/26	製品説明会：「ストラテラ内用液0.4%」、「サインバルタカプセル30mg」 病棟・部署研修会（31名）
6/2	製品説明会：「カプレルサ錠100mg」、「タグリッソ錠40mg、80mg」（28名）
6/16	製品説明会：「フェブリク錠」、「ボナロン経口ゼリー35mg」 病棟・部署研修会（27名）
6/23	製品説明会：「エボルトラ点滴静注20mg」、「サムチレール内用懸濁液15%」 病棟・部署研修会（30名）
7/14	製品説明会：「ジカディアカプセル150mg」、「タルグレチンカプセル75mg」（27名）
7/21	製品説明会：「ジオクチルソジウムスルホサクシネート耳科用液5%「CEO」」、「ウトロゲスタン膣用カプセル200mg」（31名）
7/28	製品説明会：「メファキン「ヒサミツ」錠275」、「サイラムザ点滴静注液100mg」（31名）
8/4	製品説明会：「サラジェン顆粒0.5%」、「アシテアダニ舌下錠100単位、300単位（IR）」 病棟・部署研修会（28名）
8/25	製品説明会：「オプスミット錠10mg」、「フィコンパ錠2mg、4mg」 病棟・部署研修会（32名）
8/31	Meiji Seikaファルマ Webカンファレンス：「抗菌薬TDMガイドライン改訂版－行間を読む－」（20名）
9/1	製品説明会：「ザガーロカプセル0.5mg」、「ゴナールエフ皮下注ペン300、900」 病棟・部署研修会（32名）
9/8	製品説明会：「タフィンラーカプセル50mg、75mg」、「メキニスト錠0.5mg、2mg」（30名）
9/29	製品説明会：「ヘマンジオルシロップ小児用0.375%」、「ペシタサ顆粒94%」病棟・部署研修会（34名）
10/6	製品説明会：「ウェールナラ配合錠」、「ジュリナ錠0.5mg」（23名）
10/13	製品説明会：「ヌーカラ皮下注用100mg」、「エンクラッセ62.5μgエリプタ30吸入用」 病棟・部署研修会（26名）
10/20	製品説明会：「マーデュオックス軟膏」、「カイプロリス点滴静注用10mg、40mg」（19名）

10/27	製品説明会:「パラミヂンカプセル300mg」、「ルテウム腟用坐剤400mg」（16名）
11/10	製品説明会:「ビムパット錠50mg」、「ラパリムス錠1mg」 病棟・部署研修会(26名)
11/24	製品説明会:「ゲンボイヤ配合錠」、「ドセタキセル点滴静注20mg／1mL「ヤクルト」」（26名）
12/8	製品説明会:「プロイメンド点滴静注用150mg」、「ルミセフ皮下注210mgシリンジ」病棟・部署研修会（28名）
12/22	製品説明会:「エビリファイ内用液0.1%1mL/包」、「マーズレン配合錠1.0ES」（16名）
1/12	製品説明会:「エネーボ配合経腸用液」、「ルコナック爪外用液5%」（27名）
1/19	製品説明会:「シクレスト舌下錠5mg,10mg」、「プラルエント皮下注75mgペン」病棟・部署研修会(28名)
2/2	製品説明会:「グラジナ錠50mg」、「エレルサ錠50mg」病棟・部署研修会（30名）
2/9	製品説明会:「プリズバインド静注液2.5g」、「エムプリシティ点滴静注用300mg,400mg」（32名）
2/23	製品説明会:「ビラノア錠20mg」、「リフキシマ錠200mg」病棟・部署研修会（22名）
3/2	製品説明会:「イニシンク配合錠」、「サブリル散分包500mg」（26名）
3/9	製品説明会:「デザレックス錠5mg」、「リアルダ錠1200mg」（28名）
3/30	製品説明会:「シグニフォーLAR筋注用キット40mg」、「リクラスト点滴静注液5mg」（29名）

※研修会参加者名、内容および時間などを別途記録している。

（別紙 6）

医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に基づく業務の実施状況

（業務の主な内容）

1. 医薬品の採用

・ 医薬品の新規採用に際しては、用法・用量、禁忌、相互作用、副作用、保管・管理上の注意、使用上の注意に関する問題点を抽出し、問題点がある場合には対策を検討して当該医薬品を適正かつ安全に使用できるよう適切に対処する。

・ 未承認医薬品の新規採用に際しては、担当部門の承認が得られていることを必要とする。

2. 医薬品の購入

・ 納入医薬品の商品名、剤形、規格単位、メーカー、包装単位、数量、製造番号、有効（使用）期限を確認する。

・ 納入医薬品の破損の有無及び外観異常を検査する。

・ 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬（第 1 種、第 2 種）、毒薬、劇薬、特定生物由来製品などの規制医薬品の納入時には、関連する法規に基づき対応する。

3. 調剤室における医薬品の管理

・ 医薬品は関連する法規に基づく配置、管理を行うとともに、外観類似薬は配置場所を離す、同一銘柄が複数存在する場合は規格の色やデザインを変えて規格が複数あることが判るようにする、類似名称薬品には、「類似薬品名注意」等の表示を行って注意喚起するなどの対応をとる。

・ 温度、遮光等の保管条件のある医薬品は、それぞれの保管条件を確認し、適切な場所に保管する。

4. 病棟・各部門への医薬品の供給

・ 注射薬は原則、専用トレーに患者単位・1 日単位の薬品を 1 手技ごとにセットし払い出す。

・ 配置品目・定数は、注射薬の使用量を基に年 1 回以上見直しを行う。

・ 特に安全管理が必要な医薬品（薬剤部ホームページ掲載：施錠管理の薬剤）のうち注射薬は、交付時に「所定の場所へ保管」と記載された専用の袋に入れて、直接手渡しあるいは施錠可能なカート又はカートに付属の施錠可能なボックスに入れて交付する。

・ カリウム製剤、抗がん薬及び筋弛緩薬は、一般病棟・外来診療科には原則として配置しない。

5. 外来患者への医薬品の使用

- 要注意薬（ハイリスク薬等）は、薬歴、病名や臨床検査値などを確認する。
- 処方内容に疑義がある場合は、医師へ問い合わせを行い、必ず疑義が解決してから調剤を行う。
- 疑義照会の記録として、処方箋に照会内容を赤字で記入する。
- 照会内容、変更内容、照会者を記載した疑義照会記録を保管する。
- 疑義照会などで得られた調剤及び服薬指導に必要な患者情報を病院情報管理システムに登録する。
- 処方内容に変更が生じる場合は、医師が処方を修正する。
- 糖尿病用薬、自動車運転等の禁止等の記載がある医薬品等、薬学的指導が必要な薬剤を服用している患者には、用法・用量、副作用等に関して説明を行う。

6. 病棟における医薬品の管理

- 医薬品は関連する法規に基づく配置、管理を行う。
- 規制医薬品及び特に安全管理が必要な医薬品については、必要最小限の数量を定数配置する。
- 原則として年 1 回以上、病棟医長、病棟担当薬剤師、看護師長による配置薬品の見直しを行う。
- 危険薬を新たに配置する場合は、病棟担当薬剤師が「医薬品名ラベル」とともに「危険薬シール」を配置箇所に貼付し、識別性を高める。
- 救急カートは医療安全の観点から、原則として一般病棟においては品目、数量及びカート内の配置を統一する。

7. 入院患者への医薬品の使用

- 「持参薬確認業務マニュアル」に従い、薬剤師が原則すべての入院患者の持参薬について確認を行う。
- 処方監査、調剤、患者説明等については「5. 外来患者への医薬品の使用」に準じる。
- 払い出し済みの内服薬、外用薬等の用法・用量の変更及び中止の指示は、医師が指示をオーダ入力し、必要に応じて内容等を看護師に連絡する。
- 払い出し済みの注射薬を変更又は中止する場合は、注射オーダの変更又は中止の入力を行う。不要となった注射薬は返品伝票と共に薬剤部へ返納する。必要に応じて医師は指示オーダを変更し、内容等を看護師に連絡する。
- 医師は、疑義照会により修正が必要となった場合は、病院情報管理システム上で処方修正を行う。必要に応じて医師は指示オーダを変更し、内容等を看護師に連絡する。
- 使用する上で特に注意が必要な医薬品は、調製時の注意、希釈、安定性などの情報を出

力し、注射薬に添付して情報提供を行う。

8. 医薬品情報の収集・管理・提供

- 医薬品等安全性関連情報、添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要、外観等の取り間違い防止に関する情報等を入手する。
- 未承認等に該当する医薬品の使用に関する情報を医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集する。
- 入手した医薬品情報は、いつでも利用できるように整理して保管する。
- 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の報告対象に該当すると考えられる副作用を発見した場合には、医薬品安全性情報報告書に記入し、薬剤部長に送付する。厚生労働省に送付した副作用情報は薬剤部で一括管理するとともに、薬事専門部会で評価し、対応を検討する。
- 医薬品・医療機器等安全性情報、DSU（Drug Safety Update：医薬品安全対策情報）、緊急安全性情報、安全性速報、医薬品の新規採用等に関する情報、その他、厚生労働省からの通知等については、医療サービス課等より院内各部門へ配布する。
- 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報ならびに医薬品の新規採用等に関する情報は、院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ）に掲載し、参照可能とする。
- 緊急安全性情報、安全性速報発出時ならびに添付文書情報の重要な改訂など緊急性を有する安全性情報を入手した場合は、医薬品安全管理責任者（薬剤部長）と対応を協議する。必要に応じ、院内各部門へ通知するとともに、処方医あるいは診療科ごとの患者リストを作成し、副作用の発現状況等の確認を依頼する。入院中の患者については病棟担当薬剤師による副作用等の発現状況の確認も行う。確認終了後はリストに押印し、医薬品情報管理室に提出する。
- 病院情報管理システムにより、医薬品毎の使用患者数を診療科別に集計することにより、各医薬品の処方状況を把握する。
- DSU における「最重要」、「重要」に該当する薬剤等、使用状況の定期的な確認が必要な医薬品を医薬品安全管理責任者（薬剤部長）と協議し決定する。
- DSU における記載事項について遵守状況を確認し、必要に応じ、院内各部門へ通知するとともに、通知後の遵守状況を再度確認する。

9. 手術・麻酔部門

- 手術部で使用する医薬品は、配置薬カート及び手術部医薬品庫に定数配置とし、使用した定数配置医薬品を薬剤部から補充する。
- 向精神薬、筋弛緩薬等の配置場所への補充は、手術部担当薬剤師が行う。
- 向精神薬、筋弛緩薬の数量チェックは、手術部担当薬剤師が行う。

・ 麻薬管理は、当日の麻酔科スーパーバイザーが行う。手術部担当薬剤師が麻薬の管理状況を平日業務日に点検し、使用数を補充する。休日が連続する場合は、休日後最初の平日に一括して行う。

10. 集中治療部門

・ 集中治療部で緊急時などに使用する医薬品は、配置薬カート等に定数配置とし、使用した定数配置医薬品を薬剤部から補充する。
・ 薬剤部からメッセンジャーにより搬送された医薬品の配置場所への補充は、平日は、病棟担当薬剤師が行う。休日及び病棟担当薬剤師が不在の場合は看護師が行う。
・ 向精神薬、筋弛緩薬の数量チェックは、病棟担当薬剤師が行う。

11. 救命救急センター・高度外傷センター部門

・ 救命救急センター・高度外傷センターで緊急時などに使用する医薬品は、配置薬カート等に定数配置とし、使用した定数配置医薬品を薬剤部から補充する。
・ 薬剤部からメッセンジャーにより搬送された医薬品の配置場所への補充は看護師が行う。
・ 麻薬管理は、当日の医師、看護師が行う。手術部担当薬剤師が麻薬の管理状況を平日業務日に点検し、使用数を補充する。休日が連続する場合は、休日後最初の平日に一括して行う。
・ 向精神薬、筋弛緩薬の数量チェックは、看護師が行う。

12. 輸血・血液管理部門
13. 血液透析部門
14. 画像診断部門、臨床検査部門
15. 歯科領域

・ 12～15 については「部署別安全管理マニュアル」部署別編ならびに各部門ホームページを参照する。

16. 他施設との連携

・ 必要に応じて他の医療機関へ、退院時処方（現に使用する医薬品の名称、剤形、規格、用法・用量）の内容、一包化等の調剤上の工夫、服薬期間の管理が必要な医薬品の投与開始日、アレルギー歴、副作用歴、禁忌医薬品等をお薬手帳や必要な情報が記載された簡潔な文書（シール等）に記載して提供する。
・ 院外処方箋に対する疑義照会及び回答は、薬剤部を介してファックスを用いて行う。

17. 事故発生時の対応

・ 緊急時にはドクターハリーコール（TEL 199）などにより対応する。
・ 事故発生を想定した対応手順の作成と定期的な見直しを行い職員へ周知する。
・ 「医療安全管理･危機管理対応ポケットマニュアル」を職員に配布し、定期的に見直す。
・ インシデント事例の収集・分析とそれに基づく事故防止対策の策定と実施を行う。
・ 事故発生時には、「医療事故防止対策マニュアル」、「医療安全管理・危機管理対応ポケットマニュアル」に従って対応する。

18. 教育・研修

・ 医療安全、医薬品・医療機器に関する事故防止対策等の教育・研修を実施する。
・ 新任医師及び看護師に対する医薬品の安全使用に関する研修会を実施する。

（別紙 7）

医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集
その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

（その他の改善のための方策の主な内容）

1. 未承認、適応外、禁忌（以下、未承認等）に該当する医薬品の使用

○ 未承認医薬品の新規採用

・ 未承認医薬品の新規採用に際しては、担当部門の承認が得られていることを必要とする。

○ 未承認等の医薬品の使用を行うための手続き

・ 医師は、当院で定める未承認等に該当する医薬品の使用を行う場合、「島根大学医学部附属病院における未承認新規医薬品等・適応外使用による医療の提供に関する要項」に規定する手順に従って、担当部門への申請、使用および報告を行う。

○ 未承認等の医薬品の使用状況の把握

・ 上記手続きにより使用が認められた未承認医薬品については、処方オーダリングシステムにおいて患者限定・医師限定・診療科限定等の処方制限を設け、処方に際して薬剤部で患者登録を行うことにより、使用状況を把握する。

・ 使用が認められた未承認等の医薬品については、薬剤部ホームページに掲示し、院内および薬剤部内に周知を図る。

・ 調剤および処方の確認を行う際に、薬剤師は未承認等の医薬品の使用を可能な限り把握する。未承認等の医薬品の新規患者への処方を認めた場合、使用についての院内承認の有無、処方理由およびその根拠を確認、必要に応じて代替薬等を提案する。それらの内容をカルテに記載するとともに、薬剤師介入事例データベースに登録することにより、使用状況を把握する。

・ 医薬品安全管理責任者が指名した医薬品情報管理室の担当薬剤師ならびに医療安全管理部専従薬剤師は、上記により把握した未承認等の医薬品の使用状況を医薬品安全管理責任者に定期的に報告し、必要に応じて医師等に対する指導や未承認等の医薬品の使用に関する情報の院内への通知を行う。

2. 医薬品情報の収集・管理

○ 医薬品等安全性関連情報、添付文書、インタビューフォーム等の収集

・ 医薬品の新規採用時に、添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要等の安全性に関する情報及び外観等の取り間違い防止に関する情報を入手する。

・ 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報が発せられたときには、PMDA メディナビ、製薬会社等より速やかに情報収集を行い、状況を把握する。
・ 添付文書改訂については、DSU（Drug Safety Update：医薬品安全対策情報）等により改訂情報を把握し、改訂時には新添付文書及び改訂内容を解説した使用上の注意の改訂のお知らせを当該医薬品の製造販売業者より入手する。
・ 未承認等に該当する医薬品の使用に関する情報を医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集する。

○ 医薬品情報の保管
・ 入手した医薬品情報は、いつでも利用できるように整理して保管する。

○ 医薬品情報のメンテナンス
・ 医薬品集の改訂を 3 年毎に行い、間の年は追補版を発行する。
・ 採用医薬品リスト（院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ））の改訂を薬事専門部会毎に行う。
・ 医薬品情報変更時には、薬剤部に保管する添付文書、インタビューフォーム等の更新を行う。
・ 処方オーダシステムで提供する医薬品情報のメンテナンスを月 1 回行う。
・ 相互作用データ（併用禁忌薬等）のメンテナンスを行う。

○ 副作用情報の収集
・ 院内医療関係者は、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の報告対象に該当すると考えられる副作用を発見した場合には、医薬品安全性情報報告書に記入し、薬剤部長に送付する。薬剤部長のもとで、加えるべき事項があれば追記し、厚生労働省に送付するとともに、薬剤部で一括管理する。報告された副作用情報は薬事専門部会で評価し、対応を検討する。

○ 医薬品回収情報
・ 製薬企業の自主回収及び行政からの回収命令が出された際には、速やかに以下の情報を入手する。
（資料作成年月日、種別、クラス分類、一般名及び販売名、対象ロット、数量、出荷時期、製造業者名等名称、回収理由、危惧される具体的な健康被害、回収開始年月日、効能・効果又は用途等、その他出荷先の把握状況、担当者名及び連絡先等）
・ 必要に応じ各部門、各職種へ情報提供を行う。

○ 病棟薬剤師との情報共有
・ 定期的（原則 2 週に 1 回）に医薬品情報管理室及び臨床薬剤・試験研究室が主体となり薬剤部内カンファレンスを開催し、病棟薬剤業務を行うために

必要な情報（新規採用医薬品の医薬品情報、使用上の注意等）を病棟薬剤師と共有する。

3. 院内における医薬品の使用状況の定期的な確認

○ 医薬品処方状況の把握

・ 病院情報管理システムにより、医薬品毎の使用患者数を診療科別に集計することにより、各医薬品の処方状況を把握する。また、必要に応じて、品目毎の処方患者、医師、処方量、処方日数などの情報を病院情報管理システムよりダウンロードすることで、より詳細な処方状況を把握する。

○ 医薬品の使用状況の定期的な確認

・ 毎月、DSU における「最重要」、「重要」に該当する薬剤について、医薬品安全管理責任者（薬剤部長）と協議し、使用状況を確認する薬剤を決定する。
・ DSU 発出 3 ヶ月後（4 月発出では 7 月）に、使用状況の確認が必要と判断された薬剤について過去 3 ヶ月間の使用状況を上記「医薬品処方状況の把握」に従って確認する。
・ 薬剤部長との協議において調査期間の延長が必要と判断されれば、さらに遡って確認する。
・ 把握した使用状況に基づき、DSU における記載事項について遵守状況を確認する。

4. 医薬品情報の周知及び周知状況の確認

○ 医薬品情報の提供

・ 医薬品・医療機器等安全性情報を総務課総務係より院内各部門へ配布する。
・ DSU を医療サービス課より院内各部門に配布する。
・ 緊急安全性情報、安全性速報を医療サービス課より院内各部門に配布する。
・ 医薬品の新規採用等に関する情報について、医療サービス課より院内各部門に配布する。
・ その他、PMDA メディナビ等により入手した厚生労働省からの通知などについて、内容に応じて医療サービス課より院内各部門に配布する。
・ 緊急安全性情報、安全性速報、医薬品・医療機器等安全性情報ならびに医薬品の新規採用等に関する情報は、院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ）に掲載し、参照可能とする。
・ 全採用医薬品の添付文書情報（抜粋）を処方オーダシステムで提供する。
・ 新規採用医薬品について、各診療科、各病棟、中央・特殊診療施設及び保険薬局に医薬品情報、使用開始日、使用条件等の情報を文書で提供するとともに院内情報ウェブ（薬剤部ホームページ）へ掲載する。

○ 緊急安全性情報、安全性速報発出時ならびに添付文書情報の重要な改訂時の対応

・ 上記「医薬品処方状況の把握」に従って、病院情報管理システムよりオーダ情報のダウンロードを行い、当該医薬品処方患者の過去３ヶ月間の使用状況を確認する。
・ 収集した情報にて医薬品安全管理責任者（薬剤部長）と対応を協議する。
・ 院内通知が必要であれば通知する診療科を検討し、院内通知を行う。処方医ごとの患者リスト（処方患者が多い場合は診療科ごとのリスト）を作成し、副作用の発現状況等の確認を依頼し、押印を得る。
・ 入院中の当該患者については上記の対応に加え、診療科ごとのリストをもとに病棟担当薬剤師にて診療科への情報提供ならびに副作用等の発現状況の確認を行う。確認終了後、担当薬剤師はリストに押印し、医薬品情報管理室に提出する。
・ 院内通知発出作業記録に一連の作業内容に係る書類等を保存する。

○ 定期的な確認結果を踏まえた医薬品情報の周知及び周知状況の確認

・ 周知方法は緊急安全性情報、安全性速報に準じて行う。
・ DSU における「最重要」、「重要」にある内容が遵守されている場合、院内通知は不要とし、院内通知発出作業記録に「適当に使用されていた」旨を明記する。
・ DSU における「最重要」、「重要」にある内容が遵守されていない場合、院内通知を行う。
・ 通知後の遵守状況についてはさらに３ヶ月後に確認を行い、必要に応じ再通知を行う。
・ 院内通知発出記録に一連の作業内容に係る書類等を保存する。

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　病院の機能に関する第三者による評価

①　病院の機能に関する第三者による評価の有無	㊒・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 （機関名）公益財団法人　日本医療機能評価機構 （時　期）２０１４年６月６日　一般病院２・（副機能）精神科病院　認定 （その他）２０１８年１１月　一般病院３（特定機能病院版）　受審予定	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	

3　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	